

「株式会社 姫路シティFM21」

第34回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成20年12月13日(土曜日) 午後1時30分～午後3時
2. 開催場所 姫路市本町68イーグレひめじ地下2階ミーティングルーム
3. 出席状況
 - 1) 委員総数 11名
 - 2) 出席委員数 8名
 - 3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

有馬 妙子	岩成 孝	上田 達也	梅宮 功
大谷 昭仁	岸田 直美	榎 直登	柳谷 郁子
 - 4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

勝木 洋子	段 秀和	笹間 清二
-------	------	-------
 - 5) 会社側出席者氏名

白井 正敏	(専務取締役 放送局長)
山南 俊雄	(常務取締役 営業部長)
小幡 博	(営業企画 課長 兼 放送総務 課長)
小林 寛幸	(放送総務部編成制作担当)
4. 議題
資料をもとに説明
 - (1) 事業報告
 - ・平成20年9月度からの事業報告
 - 姫路の元気をつたえた～い公開生放送報告
 - 新番組報告
 - 各種行事報告
 - ・今後の予定
 - 1月からの新番組について
 - 年越し番組について
 - ・試聴：姫路西高校130周年レポート、泰法寺落慶法要、元気発信!ふれあいラジオ

5. 審議内容

委員長 「元気発信!ふれあいラジオ」について、

出演者へのインタビューに際して課題はあるか？

事務局 現状は問題となっていることは無いと思う。

委員長 インタビューの趣旨は？

事務局 昔の写真などは、それなりに残っているが、昔から暮らしている人の声はなかなか残っていないし、残されていない。そのような声をたくさん紹介することを目標としている。できるだけたっぷりと聴いていただく事を目的にしているため、土曜日午前6時～7時の放送としている。

委員長 記録として残し、分類していく事が出来たらよいと思う。

姫路という町について、大きな変革があった時期があると思う。例えば姫路大空襲とか。そのようなときの状況などの声を集めて、特番を作る事が出来ればよいのではないか。

事務局 通常の番組は保管期限がきまっているため、それを超えると著作権等の関係で保管できない。しかし、ゲストコーナーについては著作権が局にあるので、ストックしていきたいと考えている。

実際に、飛び出せ!まちの元気人については、数年分を保管している。

これまでに3人の方にインタビューしたが、

こちらが「戦争をテーマにお願いします」と言わなくても、戦争が話として出ているので、そういった切り口も考えていきたい。

委員長 出演者の確保は大丈夫なのか？

事務局 周囲の方や社員などからの紹介で確保するほか、アンケートハガキ等を活用して、出演していただける方を広く募集するなど、様々な手段を講じている。

委員 資料には「昔の姫路の風景や暮らしについてお伺いする」とあるが、それが目的なのか？

事務局 昔のことを教えて下さいという切り口にしている。

委員 元気発信ということであれば、その人の人生を振り返ってどういう過ごし方をしてきたかとか、そのような話をしていただいた方が、ずっと聞く側にとってはインパクトがあるのではないか？

事務局 今後の参考にさせていただきます。

しかしながら、出演していただく方は初めてラジオに出るような方である。その方にどのようなアプローチができるか研究が必要である。

委員 別に、人生論や人生訓を聞くわけでない。芯になる部分が試聴だけではわからない。過ごしてきた人生を話していただくのが良いのではないか？そのような番組を考えたことはないのか？

事務局 録音番組は労力がかかるため、そこまでじっくりと時間をとってやる余裕が無いという現実もある。

委員長 自分の人生を語るというのは難しい面もある。それをききだす

テクニックも重要である。

事務局

そのとおりです。

委員

どのような過ごし方をしてきたか？だけでもいい。

事務局

ラジオインタビューについてはお伺いした言葉がそのまま番組になる。文章であれば、再構成をする事が出来る。取材が終わった後、収録MDにしっかりと必要な言葉が予想した順序で録音されていれば良いが、そこはまだまだ取材スタッフの努力が必要であると考えている。実際は大変だと思うが、新しい試みなので頑張っていたきたい。他に意見があれば、お願いしたい。

委員長

委員

新番組「好き好きやんちゃザウルス」について。

これは、どういう形で考えているのか？

事務局

非常に難しい番組であるが、当事者の視点も交えながら、必要な情報を難しすぎないように、制作するように指示している。

委員

声かけ運動推進委員会が12月に講演会をされるということなので、参加してもらってはどうか？
発達障害をもたれている方は、シートを利用して意思表示をすることがある。そういったシートが存在しているということも取り上げてほしい。ビジュアルで見せる事が出来ないのも、その分誤解を招きやすい部分がある。色々な団体とリンクしながら、まず知っていただくということを主眼に置かれたほうが良いと思う。

事務局

非常に難しい内容ではあるが、私も協力させていただきたい。

推測などで勝手なことを言って、誤解を招くわけにも行かないので、担当ディレクターは大学研究室などにも協力をお願いしている。

委員長

この問題は大学現場でも問題になっている。しかし、障害が無い人はいるのか？そんな人は存在しないといったこともあるようである。

どのように付き合うかというトレーニングをみんなでやっていくという見地も必要ではないか。

大学でも教員対象にした講習が行われている。

身近なことであるにもかかわらず、一般の人には認知されていないので、チャレンジしてほしい。

委員

イーグレ内の登録団体でも取り組んでいる団体があるので、協力を求めていますどうか？

事務局

必要だと思う。

委員

例えば、放送にあたって出演者がある場合は、名前は堂々と出してほしい。伏せるということはやめてほしい。

事務局

名前については、通常の街頭インタビューの場合は、お名前を伺っていないし、放送もしない。

どのような形で聴くかで、名前を言う言わないは変わってくる。

委員

個性ということではいわれることもあるので、健常者も障害者も決して恥じることはないという視点で、名前を伏せるということはマイナス

であり、しっかりやってほしい。

事務局 最初の段階では、そこまでの番組制作ができないと思う。
また、出演者の名前については、本人や保護者の希望によって、
取り扱いが変わってくる。
メディア側が名前を出すのが前提というのは逆に問題であるとする。
委員 でも、そこはよく検討してほしい。私の周囲に障害をもたれた方が
たくさんいらっしゃるが、私たちが思っている以上に些細なことで
傷つく事が多い。

事務局 本人が名前を出すことを拒んだとしても、番組の趣旨として名前を
出す事が前提であるということ局が主張することは、
問題であると思う。
ゲストとしてお招きした場合は、名前をお伺いし放送するのが前提。
しかし行事などでインタビューをした場合は、お名前を聞かないことも
あるし、お名前を伺っても放送しないこともある。
個人情報等でナーバスな方もいる。

委員 名前を出す出さないは放送局が決める事が出来ないのではないかと？
委員 匿名が大勢を占めるのであれば、それは番組のつくりをそういった形に
するという事なのか？
一組の親子について、インタビューをするときに、名前を伏せるという
ことになった場合、障害者の方というは、とても目がきれいで、
私たちが思っている以上に、頑張っているらしい。
しかし、その裏では、傷つきやすい。
私はそういう方々をたくさん知っているの、気になる。

事務局 例えばイベントなどで取材をする場合、障害をお持ちであるとかそうで
ないといことは、対象の選択の基準にしている。
しかし、名前を放送するかどうかについては、マナーとして
取材対象者に聞いている。
局側の判断で配慮をすることはあっても、対応の使い分けを
するようなことはしない。

委員長 メディアとして、発達障害を持たれた方をどのように慮るかという話
だと思ふ。しかし、現場でどうするか？ということは、相手によって
全て異なるから、相手を見てその都度考えていくという現実的な対応を
とらざるを得ないのではないかと？
個人としての立場を尊重するという心構えの問題であろう。

委員 暮らし安全ガイドで取り上げてもらっている「振り込め詐欺」について
昨年にも比べても大幅に増加している。12月8日に県警や行政・各種団体と
発会式をした。
これまでは、時間がないから早く振り込め！というものであったが、
今は時間をたっぷり持たせて、振り込ますという手口になっている。

事務局 何度も電話をし、何日もかけて、最後に振り込めと指示をしてくる。しかし、お金を振り込めなどということは、絶対に無いので、最終的にお金を振り込めという話は詐欺であると、ラジオでも知らせてほしい。暮らし安全ガイドというコーナーを月～金11時20分に放送している。新しい手口が出るごとに放送し、本人や周囲の目から注意喚起をするようにしている。

事務局 また、ひょうご防犯ネットで発信された情報を、生放送中に放送しているの、振り込め詐欺が発生し、情報が発信された場合は、即座に放送している。

委員長 いざ当事者になってしまえば、パニックになってしまう。

事務局 アンケートでも、被害にあった人のほとんどは、振り込め詐欺があるということを知っているようだ。

委員 あの手この手で迫ってくるので注意が必要である。

委員長 他に意見はありますか？

委員 年末年始についての体制は？

事務局 大晦日までは、まったく普段とおなじ時間数の生放送を行っている。年越し特番については、お祭りのようなものである。開局のころは、商店街などでもイベントがあったが、いまでは当社だけになっているので、地元を盛り上げる使命感を持って、年越しイベントに取り組んでいる。

事務局 1月1日～3日については、社員・スタッフは出勤しているが、番組数は減らしている。担当ディレクター、パーソナリティ、放送社員が出勤している。

事務局 放送上、3が日については年賀スポットを頻繁に流している。聴いている方が正月気分を楽しんでいただくことができる。コマーシャルも年賀用になる。

委員長 新春の香りがなかなか味わいにくい世の中になりつつある。他に意見は？

事務局 兵庫県立大学に講師派遣とあるが、どんな感じであるか？

事務局 私が行ってきた。ただ講義をするだけでは、飽きられてしまう。ラジオの特性を紹介するために、ミニFMのキットとラジオを複数用意し、携帯と違って一斉に情報を発信できるとか、少ない経費の中でスポンサーを獲得し、地域に根ざした放送を行っているということを紹介している。

委員長 他に意見がなければ、終了とする。

午後3時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成20年12月21日

公表内容 審議の概要

公表方法 自社放送17時45分～18時00分「番組審議会だより」内
事務所据え置き、ホームページ (<http://www.fm-genki.com>)

以上